

富来幼稚園は、昭和51年に富来小学校に併設して開園、翌年に現在の場所に移転しました。広々とした園庭には、季節ごとに花が咲き、木々が実をつけ、虫や鳥などがやっています。子ども達は自然と触れ合い、季節の移り変わりを日々の生活の中で感じています。

園を一步出れば、豊かな海や山があり、心を揺さぶられるような感動体験をたくさん味わうこともできます。恵まれた環境を生かして、飼育・栽培・散策等の自然体験活動に取り組んでいます。

隣接の富来小学校との連携も大切にしており、合同行事や集会活動への参加、低学年との生活科や給食・休み時間での交流などを行っています。交流によって子ども達の体験や学びの場が増えたり、小学生から刺激を受けたりしています。

また、弥生のムラでの親子体験活動（米作り・おこびり作り）や地域の方との交流（読み聞かせ・しめ縄飾り作り・もみすり・ひよこ組さんと遊ぼう）など、家庭や地域との連携も深めています。

このように、豊かな体験活動・遊び・交流をとおして、教育目標である「心豊かに生き生きと生活する子ども」の育成に努め、子ども像である「心豊かな思いやりのある子ども」「最後まであきらめず頑張るたくましい子ども」「自ら考え工夫し、遊びを作り出す子ども」を目指しています。

国東市立富来幼稚園

岩光一郎園長 園児数4名

0978-74-1212



羽田海岸で自然体験



3B体操で小学校低学年と交流

市長室から

こんにちには

ヤシキカン祭り

7月
13日
NO.27

国東市長

三河 明史

本日午前に、「ヤシキカン祭り」を行いました。「ヤシキカン祭り」とは何か？おそらく「屋敷神祭り」がなまったんだろうと思います。私の住む地域ではこう呼ぶのです。他の地域で「お荒神祭り」などと言うのも同じではないかと思っています。

家屋敷を守っていたらいたる神様に、一年に一度感謝をこめてのお祭りです。神官さんに来ていただくのですが、我々も準備をこなしてはなりません。以前、三河家は三軒が、一か所であり、その三軒でいろいろ行ってきました。この「ヤシキカン祭り」も持ち回りで主催を受け持つのです。今は、一軒が引越したため、二軒で交代に主催を務めます。お祭りの準備はまず、各家でしめ縄を編みます。国東では「縄をなう」と言います。この時、左に縄を「なう」のが正しいのですが、私にはそんな器用なことはできませんので、知らん顔をして普通に「ない」ます。

それから朝早く、近くの開墾地で「神柴」を切りに行きます。妻はご飯、米、魚、野菜、水等のお供えを準備します。お盆への乗せ方も色々あり、妻はノートに配置図と説明を書いており、それを見ながら準備しています。その間私は御神体の入っているお社を一度開けて、ほこり等をきれいに掃除します。お祓いの神、玉ぐし、御幣、御神体が着る紙の着物などは神官さんが作ります。

準備ができると、主催の家で、続いて他の家の順で神官さんが神事を行い、その家の一年間の無事を祈るのです。神事が終わると、御幣をその家の大事な所に置きます。我が家の置き場所は、お社、座敷にある神棚、奥座敷にある神棚、台所、井戸です。

その後、主催の家に行き、神官さんも同席して皆でご飯を食べます。かつてはご飯を炊いておかずを作り、家族が全員集まってお酒を飲みながら賑やかに過ごしたものです。何となく世の中が忙しくなりました。現在では、お弁当を取り、ジュースで乾杯とするのが一般的になりました。少し淋しい気もしますが、昔から伝わる神様を大事にするという、後の世に伝えたい風習です。